



2020年10月30日
第53号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集 情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



ANA



21年3月期 過去最大5100億円赤字見通し

経営立て直しの戦略を発表

ANAホールディングスは、21年3月期決算で過去最大となる5100億円の赤字見通しを発表しました。これに伴い、経営立て直しの戦略も発表しました。

ANAと同じく公共交通機関を担う企業で働く私たちは、ANAグループの新しいビジネス・モデルから学ぶことが多くあるのではないのでしょうか。他企業の取り組みから、JR東日本はどのように黒字経営を実現していくべきか、私たちの雇用を守るにはどうしたら良いのか仲間と議論しましょう。

ANAホールディングスが発表した主な立て直し策

- 新規採用活動の凍結⇒人件費の削減
- 家電製品のノジマや高級スーパー成城石井など外部企業への出向⇒人件費の削減
- 全日空では賃金カットや一時金の減額を労働組合に提案⇒人件費の削減
- 保有する飛行機の早期退役⇒整備費の削減
- 大型機の削減⇒整備費の削減
- マイレージ会員のデータなどを生かす新会社を立ち上げ⇒非航空事業の育成
- 全日空のマイルを傘下のLCCピーチのポイントに交換可能にする⇒LCCの活用
- 全日空が窓口になって受けた貨物輸送にピーチの機体も活用する⇒LCCの活用
- 新たなLCCのブランドで運航開始⇒LCCの活用

※LCC (Low Cost Carrier)・・・格安航空会社



ANAHDの変革はJR東日本で働く私たちにとって他人事ではありません。 正しい情勢認識と他企業からの学びで私たちの雇用を守っていきましょう。